

発掘成果をふりかえって 2009

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



発掘調査の位置

2009年に行なった発掘調査の中から、おもな成果を選んで紹介します。9月には「八坂の塔」で知られる法観寺境内から白鳳時代の埴仏が出土し、速報展で公開しました。11月に京都市考古資料館は開館30周年を迎え、「京都 秀吉の時代」展を開催中です。



1 上里遺跡 西京区大原野上里南ノ町

2001年に始まる道路新設にともなう上里遺跡の調査で、新たに縄文時代晩期の遺構を発見した。柱跡のほか土器棺墓が見つまっている。土器の出土状況から、集落はさらに南北に広がる可能性がある。石器製作の際に出たとみられる石の破片も大量に出土した。



2 中臣遺跡 山科区勤修寺東金ヶ崎町

中臣遺跡の南西端で、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴住居3棟と、飛鳥時代の土器棺墓1基を検出した。竪穴住居跡はいずれも焼失住居と考えられ、炭化した柱などが良く残っている。



3 常盤東ノ町古墳群 右京区常盤東ノ町

古墳時代後期の石敷き遺構を検出した。南北長約8.5m、東西幅約4mの楕円形の掘形の中程に拳大の石がぎっしりと敷き詰められ、上部の石室がすべて失われた横穴式石室の基底部と考えている。



4 史跡 法観寺境内 東山区清水八坂上町

「八坂の塔」で知られる法観寺五重塔の南側で白鳳期の埴仏が出土した。「火頭形三尊埴仏」と呼ばれるもので、漆と金箔が残り、日本でも最古級のものである。

5 平安宮左兵衛府・侍従所跡 上京区下立売通日暮西入る中村町

平安時代初頭の土坑から、平安京造営時に近い時期の土器類や、フイゴ羽口・砥石・刀装具未製品など、宮内での手工業生産を示す資料が出土した。近世では江戸時代前期から幕末までの豊富な遺物群が出土している。



6 教王護国寺（東寺）境内 南区大宮通八条下る九条町

東寺主要伽藍の北東で平安時代後期の建物や井戸跡などを検出した。寺の経営に関わる「賤院」跡と考えられる。緑釉軒丸瓦（写真）は講堂の調査で出土した造営当初の建物の瓦と同文であった。



7 法住寺殿跡 東山区茶屋町

京都国立博物館の調査で最下層から平安時代後期の道路に面して大規模な門跡とみられる柱穴を検出した。法住寺殿に関わる遺構として注目できる。方広寺跡の下層には中世の遺構も多く残る。



8 葺嶋館跡 西京区川島玉頭町

中世から江戸時代まで存続の葺嶋館の堀を発見した。『葺嶋家文書』の江戸時代中期の絵図にある、南東部を区画する堀と考えられる。堀の西側では、室町時代の井戸や柵などの施設が検出した。



9 史跡 旧二条離宮（二条城） 中京区二条城町

二条城内の「桜の園」の調査で、江戸時代前期の建物跡が見つかった。柱の礎石や抜き取り穴および根石が並び、江戸時代の絵図にある御殿西側の台所に関する建物と関連施設と考えられる。